

横浜市教育委員会
定例会会議録

- 1 日 時 令和7年4月11日（金）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（みなと6・7）
- 3 出席者 下田教育長 植木委員 森委員 泉委員 綿引委員 緒方委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

令和7年4月11日（金）午前10時00分

1 会議録の承認

2 一般報告

令和6年度「はまっ子未来カンパニープロジェクト」学習発表会及び市立高等学校課題探究発表会の報告について

令和6年度 Yokohama English Quest 及びはまっこ留学体験事業の報告について

3 その他

[開会時刻：午前10時00分]

下田教育長

ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。
はじめに、4月2日付で植木委員、緒方委員が就任されましたので、御紹介いたします。まず、植木委員から御挨拶をお願いいたします。

植木委員

このたび着任いたしました植木八千代でございます。昨年度3月末まで横浜市の職員として勤めておりました、直近の4年間は瀬谷区長としての任を果たしてまいりました。瀬谷区の中で気が付いたものとしては、学校は学びの場ということだけではなくて、地域とのつながりの場でもあり、そして安全や安心を守る場所でもあると認識しております。瀬谷区の在任中もいろいろと地域の皆様、学校の教職員の皆様に御支援いただきまして、任を果たしてまいりました。このたび教育委員という役目を拝命いたしまして、区役所におけるいろいろな経験でしたり、そういったところを今回の教育委員としての任で生かしていければと思っております。教育に関わるということで、非常に重い役目を頂いたと認識しており、大変引き締まる思いでございます。真剣に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

下田教育長

続きまして、緒方委員をお願いいたします。

緒方委員

改めまして、おはようございます。緒方克行でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。私は40年間、学校現場で教職を務めてまいりました。最初にスタートしたのは、南区の日枝小学校です。それから、スリランカにありますがコロンボ日本人学校や横浜市内の小中学校で教諭、副校長、校長を務め、最後はこの3月に帰国したのですが、インドネシアのジャカルタ日本人学校で勤めてまいりました。その間、40年間のうちの6年間でございますが、横浜市教育委員会事務局の指導主事として、学校教育事務所や現在の学校経営支援課の業務に従事してまいりました。学校現場、教育委員会事務局、在外教育施設で得られた経験を生かしまして、横浜の子どもたちのために力を尽くしてまいりたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

下田教育長

ありがとうございます。また、中上元委員が教育長職務代理委員でしたが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により、私の方で教育長職務代理委員を植木委員に指名させていただきましたので、御報告させていただきます。

植木委員

よろしくをお願いいたします。

下田教育長

次に、4月1日付で教育委員会事務局の経営責任職の異動がありましたので、事務局から紹介いたします。

黒柳職員課長

教育委員会事務局職員課長の黒柳と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。それでは、本年4月1日付で異動がございました経営責任職を御紹介いたします。
教育行政監、三島圭介でございます。

三島教育行政

<一 礼>

監	
黒柳職員課長	教育委員会事務局担当理事（学校給食・食育推進部長）、田中礼子でございます。
田中教育委員会事務局担当理事（学校給食・食育推進部長）	<一 礼>
黒柳職員課長	教育政策統括部長、田中敦でございます。
田中教育政策統括部長	<一 礼>
黒柳職員課長	教育政策統括部生涯学習担当部長、小野寺紀子でございます。
小野寺教育政策統括部生涯学習担当部長	<一 礼>
黒柳職員課長	教育D X推進部長、高梨智治でございます。
高梨教育D X推進部長	<一 礼>
黒柳職員課長	教職員企画部長、森長秀彰でございます。
森長教職員企画部長	<一 礼>
黒柳職員課長	学校教育部長、丹羽正昇でございます。
丹羽学校教育部長	<一 礼>
黒柳職員課長	学校教育部担当部長、山本憲司でございます。
山本学校教育部担当部長	<一 礼>
黒柳職員課長	学校教育部人権健康教育担当部長、横山康孝でございます。
横山学校教育	<一 礼>

部人権健康教育
担当部長

黒柳職員課長

不登校支援・いじめ対策部長、住田剛一でございます。

住田不登校支
援・いじめ対
策部長

<一 礼>

黒柳職員課長

東部学校教育事務所長、高橋義成でございます。

高橋東部学校
教育事務所長

<一 礼>

黒柳職員課長

中央図書館長、大塚尚子でございます。

大塚中央図書
館長

<一 礼>

黒柳職員課長

なお、職員の異動はございませんが、部の名称変更があった経営責任職についても紹介させていただきます。

教育政策統括部教育プロモーション担当部長、林豪。

教育政策統括部図書館ビジョン等担当部長、飯島龍。

学校教育部インクルーシブ教育担当部長、西野均。

教育環境整備部長、肥田雄三でございます。

紹介は以上でございます。よろしく願いいたします。

下田教育長

それでは、次に会議録の承認を行います。3月7日の会議録の署名者は泉委員と綿引委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、3月19日の教育委員会臨時会の会議録については、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

石川教育次長

【一般報告】

1 市会関係

○3/24 予算第二特別委員会（採決）

○3/25 本会議（第6日）予算議決、追加議案の議決

教育次長の石川です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、3月24日に、予算第二特別委員会が開催され、採決が

行われました。

また、3月25日には、本会議6日目が開催され、予算議決、追加議案の議決が行われました。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 3/25 令和6年度 横浜市立高等学校課題探究発表会
- 3/31 学校管理職等感謝状授与式ほか
- 4/1 新規採用教職員辞令交付式
- 4/1 教育委員会事務局職員辞令交付式

(2) 報告事項

- 令和6年度「はまっ子未来カンパニープロジェクト」学習発表会及び市立高等学校課題探究発表会の報告について
- 令和6年度Yokohama English Quest及びはまっこ留学体験事業の報告について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、3月25日に、「令和6年度 横浜市立高等学校課題探究発表会」が横浜市開港記念会館で開催され、森委員が視察されました。

3月31日には、学校管理職等感謝状授与式及び校長採用等辞令交付式が保土ヶ谷公会堂で行われ、学校管理職を務められた教職員への感謝状の贈呈と、校長等に採用・昇任された教職員へ辞令の交付が行われました。当日は、下田教育長、森委員、大塚元委員が出席し、下田教育長と大塚元委員が挨拶されました。

4月1日には、新規採用教職員辞令交付式が横浜武道館で行われ、森委員が挨拶されました。今年度は教職員899人が採用となり、下田教育長より辞令の交付と訓示を行いました。

また、同4月1日に、教育委員会事務局職員の辞令交付式を行いました。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点報告いたします。1点目ですが、「令和6年度『はまっ子未来カンパニープロジェクト』学習発表会及び市立高等学校課題探究発表会の報告について」、2点目は「令和6年度Yokohama English Quest及びはまっこ留学体験事業の報告について」、御報告いたします。

私からの報告は以上です。

下田教育長

報告が終了いたしました。御質問等ございますか。よろしいですか。

特に御質問がなければ、「令和6年度『はまっ子未来カンパニープロジェクト』学習発表会及び市立高等学校課題探究発表会の報告について」、そして、「令和6年度Yokohama English Quest及びはまっこ留学体験事業の報告について」、所管課からまとめて御報告いたします。

丹羽学校教育
部長

学校教育部長の丹羽でございます。グローバル人材の育成につながる取組を御報告いたします。小学校・中学校・高等学校における探究的な学習関連について、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」、「横浜市立高等学校課題探究発表会」の順で2点、英語を使ったコミュニケーションの向上に係るプログラム「令和6年度Yokohama English Quest・はまっこ留学体験」を1点として、計3点をまとめて学校経営支援課グローバルデザイン担当課長から御報告いたします。

学校経営支援課グローバルデザイン担当課長の多賀谷です。どうぞよろしくお願ひします。1点目の御報告は、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」についてです。「はまっ子未来カンパニープロジェクト」は、横浜の児童生徒が企業等や地域の方々と連携・協働し、「社会・地域課題の解決」に取り組む学習を行う中で、社会参画に対する意識を高める事業です。令和7年2月18日、令和6年度にプロジェクトに取り組んだ子どもたちが、自分たちの取組とその活動の成果を発表する学習発表会を開催いたしました。オンライン参加の子どもたちも含め、計約4,000人の子どもたちが参加し、発表に大きな拍手を送り、活発に意見交換しました。

「日時」、「会場」、「参加者」は記載のとおりです。「内容」ですが、第1部では、発表校による活動報告を行い、午前の部には、入船小学校4年1組によるごみになってしまうものを再利用する「入船アップサイクル計画」に関する取組などの発表が、午後の部には、上から3行目ですが、西富岡小学校5年3組による「環境とゴミと『僕ら』と」の取組発表などが行われました。発表に対して、現地参加校のほか、オンライン参加の学校からもチャットで多数の感想が上がりました。オンライン参加校は、感想が読まれると大喜びの様子で、オンラインならではの規模感と、オンラインをものともしない熱量が感じられました。

裏面を御覧ください。第2部では、「はまっ子が横浜の未来を語る会」を行い、会場・オンライン参加を交えた意見交流を実施しました。これは、第1部を踏まえ、「これからの横浜のまちをどのようなまちにしていきたいか」をテーマに意見交換を行うもので、例えば「はまっ子未来カンパニープロジェクトの取組で、自分たちのまちをきれいにする」という取組を発表した学校からは「クリーンな横浜にしていきたい」という発表があるなど、自分たちの活動で横浜の姿を変えたいという意欲が見られるものでした。参加した子どもたちからは、他校の取組に感銘を受けたり、参考にしようとする姿が見られるとともに、参加した教員からも、たくさんの学校とつながることによる好循環・楽しさに関する感想が聞かれました。

次の資料にまいります。続きまして、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」と一つなぎの取組として、高等学校の課題探究発表会についても御報告いたします。「横浜市立高等学校課題探究発表会」と書かれた資料です。横浜市立高等学校では、「総合的な探究の時間」や様々な教育活動の中で、自ら課題を設定して探究を行う「課題探究」に取り組んでいます。このたび、校内での発表を経て代表になった横浜市立高等学校（9校10課程）の1年生から2年生を代表とする40人が、横浜市開港記念会館で発表と協議を行いました。「目的」、「テーマ」、「日時」、「会場」、「参加者」、「講評」や、「第1部 課題探究活動発表」概要は記載のとおりで、戸塚高校（定時制）による「戸塚区での地域協働について」など、思い思いのテーマの発表が行われました。

裏面を御覧ください。第2部では、発表校への質問や意見交換、更なる探究の意気込みを発表するなど、互いの成果や考えを共有しました。意見交換の中ではグループを組み、自己紹介が終わるとすぐに活発な意見交換が始まるなど、生徒の協同学習能力の高さが光りました。参加した生徒からは「他校の生徒や講師の先生から、自分たちにはない視点から質問をされて、足りない点があると気付くことができた」などのコメントがあり、更なる探究への意欲が聞かれました。

最後に、講師の方からの講評が記載されております。こちらに集約されていると感じるのですが、「自分たちの地域とつながった課題探究は、探究の過程で多くの人と関わり合うことで、新たな探究すべき課題を見つけることになり、やがてグローバル規模の課題探究につながっていくため、各校で引き続き課題探究活

動を続けていってほしい」と講評をいただいております。

前段の「はまっ子未来カンパニープロジェクト」も、後段の「横浜市立高等学校課題探究発表会」も、多くの人と関わりながら、互いや自分の人生のテーマを前進させていくという、本市が目指す人づくりを象徴する事業であると考えられます。取り組まれているテーマには、環境や緑に関するものも多く含まれています。2027年に開かれる「GREEN×EXPO 2027」等を契機に、今後もこういった取組を推進していきたいと考えております。

最後に、少し内容が変わりますが、「令和6年度Yokohama English Quest及びはまっこ留学体験」についても御報告いたします。「Yokohama English Quest」は、多国籍のイングリッシュスピーカーと児童生徒が同じチームになり、英語でコミュニケーションを図りながら、ミッションをクリアし、横浜の魅力を発見・発信するプログラムであり、「はまっこ留学体験」は、横浜市内に住む外国籍の家庭に2日間ホームステイを行う留学体験プログラムです。先ほど御報告した「はまっ子未来カンパニープロジェクト」や「高等学校の課題探究」が、自ら課題を見つけ、人とつながりながら課題に向かっていくテーマをしているのに対し、これらのプログラムは、これまで学んできた英語を実際に活用し、多様性を受け入れながらコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことを目的としており、私たちはこういった取組が両輪でグローバル人材育成であろうと考えているところです。

「Yokohama English Quest 開催概要」の枠を御覧ください。「開催日」、「開催場所」、「参加者」は記載のとおりです。「参加者アンケート結果概要(第1回)」のところを御覧いただくと、プログラム満足度約93%もさることながら、「もっと外国の方と話せるようになりたい。」「日本に来た外国の人が困っているときに、進んで声掛けをして助けられるようになりたい。」など、英語を使ったコミュニケーションへのモチベーションが高まっていることが分かります。

次に、「はまっこ留学 開催概要」の枠を御覧ください。「参加者アンケート結果概要」を御覧いただいても、プログラム満足度で100%を頂いたこと以上に、参加した子どもたちの感想で、「自分の知らないことに触れて視野が広がった。」「今後も違いを認め、互いに尊重し合っていきたい。」と感じたこと、この多様性包摂性の部分が最大の効果であると感じているところです。

横浜市では、今後も日々の授業の中で人とつながり、英語を使ったコミュニケーションを学ぶとともに、価値観や世界への視野の広がりを感じられるような様々な授業・プログラムを行い、グローバルな視点を持った人づくりを進めていきたいと考えております。御報告は以上です。

下田教育長

説明が終わりましたが、何か御質問等ございますか。

綿引委員

ありがとうございます。質問というよりも感想でございますが、このプロジェクトについては、プロジェクト学習ならではの醍醐味が凝縮されているように思います。1校であればできないような共創や総合的な学びなど、また、子どもたちが教える側、学ぶ側、双方になれる、そういう学びが深まる素晴らしいプロジェクトだと思います。今の御説明の中にもありましたように、子どもたちが未来をつくる当事者だということが実感できるように、グローバル市民としての資質、地域を愛する気持ち、そういったことをこの論議の中で身につけられるような運営の企画、工夫、評価の仕組み、こういったものをぜひ考えていただいて、引き続き大いなる進化を期待したいと思います。以上でございます。

下田教育長

ほかにございますか。

植木委員

御説明ありがとうございました。いろいろな課題を、小学生、高校生の皆さんが自分で決めて、その解決に取り組んでいくということで、すてきな取組であったと思っております。ただ、いろいろな形で地域の中で課題を見つけたということであれば、できればこういった形の発表会で終了ではなくて、地域に、こういったことを小学生・中学生・高校生の皆さんが考えているということ、そして、実際に実現可能なものであれば、そういった取組を地域の中で進めていく。そういったことができるかすてきになると思うのですが、その辺りについての取組はどうお考えになっているのでしょうか。

多賀谷学校経営支援課グローバルデザイン担当課長

ありがとうございます。取組の中には、地域の商店街と連携しているものや、その取組を次年度につないでいくものなど、様々な取組が含まれております。一方で、今、植木委員がおっしゃったとおり、その取組が地域の中で浸透していたり、子どもたちがその影響を実感できるような部分というのが事業の目的としても非常に重要な部分だと考えておりますので、今後はそのような展開について検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

下田教育長

ほかにございますか。

緒方委員

説明どうもありがとうございました。この「はまっ子未来カンパニープロジェクト」ですが、子どもたちが体験を通して問題を解決していくという面では、非常に子どもたちの深い学びにつながると私は思っております。それで、これは私ごとなのですが、私が校長を務めていたときにもこのプロジェクトに参加させていただいて、ローソンと一緒にパンを作る、開発するというを行いました。そのときに、会社側の限られた予算内で作らなければいけないです。でも、子どもたちの思いとのすり合わせの部分で、子どもたちは非常に悩みながら一緒に開発してきて、最後は製品に仕上がったとき、子どもたちは非常に実感的に、この社会のありようなど、そういうことを感じることができました。教育委員会事務局から紹介していただいたローソンで非常に良い学びができたと思っておりますが、今申し上げたように、そのときには教育委員会事務局からこういう取組はどうですかという紹介が皆さんにあって、その中から私は選んだわけですが、今でもそのような企業や社会とつながりいろいろな手立てがあるのでしょうか。

多賀谷学校経営支援課グローバルデザイン担当課長

ありがとうございます。取組が大分浸透してまいりましたので、学校から、このような取組を行いたい良い企業があるだろうかというような照会、相談をもらうことがたくさんございます。それに対して、教育委員会事務局がストックしている企業を紹介するというのももちろんマッチングで行っているのですが、そのほかに、市民局の市民協働を行っている部門や政策経営局の共創を進めている部門とも連携して、様々な場所、様々な企業などと連携するような取組も盛んに進めているところです。このつながろうとするプロセス自体が、教育委員会事務局、学校、教職員、それから子どもたちにとっても何より得がたい経験の一つであると考えておりますので、これからもこのマッチングには、様々なところを巻き込みながら力を入れていきたいと思っております。

下田教育長

よろしいでしょうか。

泉委員

御説明ありがとうございました。子どもたちが地域社会の多様な人たちと議論

したり支援を受けながら取組を進めている様子がとても良く分かりました。私からは、こういった子どもたちの個々の経験をどのように蓄積して残していくかということについて、少し質問と言いますか意見を言わせていただきたいと思います。

こういった小学校の頃からの探究的な学習の取組が中学校・高等学校へとつながりを持って可視化できるというのが、子どもたちにとってとても有意義ではないかと考えます。と言いますのは、自身の知的興味・関心の変遷を子ども自身が振り返ることができるということはその後の進路選択にも生かすことができますし、もう一方で、大学入試改革や大学教育改革も言われておりますが、その根底にあるのは、AIの利用が生活の一部になってきていることから、AIが生成するアウトプットとのすみ分け・差別化をするためには、どうしても個々の体験というのが非常に大切になるかと思えます。そういった点で、子どもの頃からのこういったとても貴重な知的活動を蓄積していくような仕組みというものがあるかどうかということについて、御質問したいと思います。以上です。

多賀谷学校経営支援課グローバルデザイン担当課長

ありがとうございます。教育委員会事務局は今、横浜学習ダッシュボードで、「横浜St☆dy Navi」というものを整備しているところでございます。この中には、グローバルパスポートや、これからのキャリアパスポートなど、今、泉委員がまさにおっしゃった、自分の経験を蓄積するというような仕組みを入れていきたいとちょうど考えていたところです。その中で、子どもたちが自分の知的興味の変遷を確認しながら、これから進むキャリアや仕事について考えていける、そういう仕組みを作りたいと考えているところです。ありがとうございます。

森委員

御報告ありがとうございます。横浜市立高等学校課題探究発表会を見学させていただいて、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」学習発表会も午後の部に参加しました。どちらも共通して、子どもたちの思いというのがすごく伝わってくるプレゼンテーション発表が幾つかありました。その思いがすごく伝わってくる発表というのは、その子自身とつながっているということがとても感じられました。恐らくこの子は、学校での学習が終わった後も、家だったりいろいろな場面でこの課題を考えたり、更に深めているのだらうなということが端々から感じられるようなものもありました。例えば一例として、高等学校課題探究発表会でしたが、サッカーが好きな生徒がいて、その子がJリーグの研究をされていました。Jリーグの経営状況や、世界中のサッカーチームの経営状況を比較したりしながら、その中で、スポーツの成績のみならず、地域との協働のようなことの重要性にも気付いていくといったセオリーがだんだん見えてきたけれども、セオリーどおりにいくものと、そうでないものにもまた更に気付いていく。加えて、最終的にアジア市場での可能性といったところに行き着いていたわけです。その出発点から気付いていった先に、更に視点を変えながら深めていっている様子が非常に印象的でした。

ここで今感じたことですが、理数探究においては仮説があって、実験を通してそれを証明していった、また更に違った角度で実験したりというアプローチがあると思うのですが、こういった理系、文系という分け方ではないのかもしれませんが、社会におけるいろいろな課題をどのように深めていくかということについては、アプローチがとにかく多様にある。この多様にあるアプローチを、どのように子ども自身が自分に合った方法を選び取り、教職員自身がそれを伴走していくのかということにおいては、かなり模索されているなということも感じました。今まさに試行錯誤の段階かなと感じたところでもあります。一方、ここ数

年、何回か見ていく中で、「自分とは何だろう」というようなことに深く向き合う時間をしっかりと取っていたり、それを自分自身だけではなくて、ほかの周りの人から私はどう見えているだろうかということもしっかり取っていることで、自分の深めるテーマが見つかりやすくなっているのかなというのが一つ感じたことです。

あと、机上の空論にならないように、動いて人に出会っていくということを確実にやっている生徒の、テーマや探究の深まり方はやはり違うなと思いました。アンケートを取ったり調べたりということを皆さんされるのですが、そこで終わっている発表もあれば、そこから見えたことを更に違う角度からもう一回見てみるということや、ほかの人と出会いながら行っていくことをされている方々も何人かいらっしゃいました。その2回目のもう一度違う角度からどのように見てもらおうと良いだろうということは、大人も相当伴走されたのではないかとということも感じました。この2回目の更に深めていくところをどうしたら教職員たちが伴走しやすくなって子どもたちも探究しやすくなるかということころは、ぜひ教職員だったり、教育委員会事務局も更に研究を深めながら御支援いただけたら良いなと感じたところでした。

あと、「Yokohama English Quest」や「はまっこ留学体験」の開催についても一言申し上げたいと思います。非常に満足度が高く、とても多くの出会いや発見があったということが伝わってきます。更にどのように深めていけるのだろうかということをお聞きしておりました。そこで一つ思い出したのが、今週インドネシアからいらっしゃった方とお話ししていたのですが、ちょうど言語の話になりまして、インドネシア語というのは過去形がないという話をされていました。その過去形がない言語の中で、自分たちがどういうマインドなのかというお話をしてくださったのです。ですから、コミュニケーションを取るときにその言語の特性や、そこでどのように文化がひも付いているのだろうかなど、そういったことまで知るようなきっかけがちりばめられていると、コミュニケーションという一つを取っても更に深まるのではないかと感じたことが一つです。

あと、日常にどう落としとしていけるかということもすごく大事なポイントだと思います。日本、特に横浜市は、外国につながる子どもたちも大人の方も既にたくさんいらっしゃる中で、こういったイベントで感じたことを、日頃、クラスの中だったり街の中で自分に何ができるか考えるということにつながれると良いのかなと思いました。既に取り組んでいらっしゃるかもしれませんが、もしも補足があればそこもお願いします。

最後に二つ質問なのですが、今、小学校と高等学校の発表がありましたが、その連携というのがすごく大事になってくると思います。それぞれに積み上げてきたものの共有も含めて、それを今どう考えていらっしゃるかが一つです。あともう一つは、個別支援学級や特別支援学校における探究の在り方ということころもすごく大事なポイントだと思います。先ほど個別支援学級の発表があったということでしたが、その辺りは今どのようなになっているか、もし補足いただけたらと思います。お願いします。

多賀谷学校経営支援課グローバルデザイン担当課長

ありがとうございます。まず、最後の個別支援学級の取組ですが、この「はまっこ未来カンパニープロジェクト」に限らず、小学校における総合の学習の時間というのは大分深まりを見せており、学校の中でも、個別支援学級の教職員を含めて、うちの学校の総合的な学習の時間はどうしていこうかというような知識の共有が図られているところでした。聞いたところでは、個別支援学級だからこそ総合的な学習の時間に力を入れることで、子どもたち一人ひとりを伸ばしていける

よねというような角度であったり、個別支援学級に閉じることなく一般学級の子どもたちと一緒に取り組むことで、一般学級の子どもたちの学びにつながることもあるというような話も聞いております。これから個別支援学級における取組というものも力を入れていきたい、好事例の横展開をしていきたいと思っていますところでは。

また、先ほどお話しいただきました小学校・中学校・高等学校の連携についての部分ですが、私どもの所管は今回の機構改革で学校経営支援課に名前が変わりました。この趣旨としては、小学校・中学校・高等学校一貫して軸を通して物事を行っていかうという意志の表れでもあると思っています。今も小学校・中学校の取組や高等学校の取組を共有したり、こういう好事例があったというところを教職員間で行ったり、そういうステージもございしますが、それ以上に小学校・中学校の好事例、高等学校の好事例が共有されたり、また、高等学校の先輩の生徒の姿を小学生・中学生が見て懂れて、そこに向かって更に取組をしていきたいというモチベーションになるような仕組みも考えていけたらと考えているところでは。

また、コミュニケーション言語の特性についてというお話も頂きました。今回のプログラムではないですが、英語に関するプログラムに参加した子どもたちの感想の一つとして、「英語をしゃべっていると、結論から話すことに気付く。日本語は結論を後ろに持つてくることに気付く。こういうところから、日本語は結論を控えめに言うところがあるんだなと気付いた」というような感想を見たことがあります。私たちは日々の授業が一番大事だと考えておまして、こういうイベントやプログラムももちろん大切にしていきたいのですが、授業の中で単にコミュニケーション言語を学ぶだけでなく、その背景みたいなものにも思いをはせる授業ができるように、今後も連携を図ってまいります。以上です。

下田教育長

ありがとうございます。ほかによろしいですか。

それでは、ほかになれば、以上で本日の案件は終了いたします。事務局から報告をお願いいたします。

古瀬総務課長

4月10日に1団体から、「教科書採択に関する要望書」が提出されました。この要望書につきましては、事務局で対応を調整の上、教育委員会で審議が必要な場合は、次回以降にお諮りしたいと思います。委員の皆様は、内容の御確認をよろしくをお願いいたします。

次回の教育委員会定例会は、5月9日金曜日の午前10時から開始する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、5月22日木曜日の午前10時から開始する予定です。

下田教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会定例会は、5月9日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので、御確認ください。

以上をもちまして、本日の教育委員会定例会を閉会いたします。傍聴・報道機関の方は御退席をお願いします。また、関係部長以外の方も退席してください。なお、教育委員の皆様は連絡事項がございますので、このままお待ちください。

[閉会時刻：午前10時40分]